

家庭学習の手引き (H23)

延岡市立緑ヶ丘小学校

小学校の学習は、将来社会人として自立していくための基礎となるものです。特に「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「計算すること」は、社会生活において欠かすことのできない基礎的な学力です。学校では、子どもたちに基礎的な学力をつけさせ、生きる力を育むいろいろな取組を進めています。そして、家庭と連携することで、その力は何倍にも高められます。

この家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を進めていきましょう。

1 家庭での学習を習慣化しよう

* 学習時間のめやす

低学年 30分 中学年 60分 高学年 90分

* 学力アップは規則正しい生活から

- 早寝・早起き
- 朝食は必ずとる
- 排便の習慣
- テレビやゲームの時間を決める
- 自分で時間割や学習用具をそろえる
- 毎日家の手伝いをする

* 学習の3つのポイント

- テレビを見ながらしない
- よい姿勢でする (ピン・ピタ・ゲー)
- 机の上をきれいにする



2 家庭学習の参考例(各学年共通)

国語 ・漢字練習 ・意味調べ ・視写
 ・日記 ・音読 ・ことばの使い方
 算数 ・計算練習 ・百ます計算
 ・テストなどで間違えた問題をもう一度解いてみる
 社会・理科・総合
 ・勉強したところに関係のあることがらを本や辞典、ホームページで調べまとめる。
 ※ 市販のドリルや問題集に取り組んでみるのもいいでしょう。

3 各学年で身につけたい力

<1年生>

- ① 鉛筆を正しく持って文字が書ける。
- ② ひらがな・カタカナの清音を読めて書ける。
- ③ 助詞(は・へ・を)を適切に使って文章が書ける。
- ④ 80字の配当漢字がすべて読め、9割の漢字が書ける。
- ⑤ たし算・ひき算ができる。

<2年生>

- ① 160字の配当漢字をすべて読め、9割の漢字が書ける。
- ② 教科書がすらすら読める。
- ③ 順序よくお話をすることができる。
- ④ 九九がすらすら言える。
- ⑤ たし算とひき算の筆算ができる。
- ⑥ 決められた長さの直線を正しく引ける。

<3年生>

- ① 200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 筋道を立ててわかりやすく話すことができる。
- ③ かんたんわり算ができる。
- ④ たし算やひき算、かけ算の筆算ができる。
- ⑤ 一億の位までの数を読んだり書いたりできる。
- ⑥ かさ、重さなどの量になれる。

<4年生>

- ① 200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 文章の語尾を変えたり、図を提示したり工夫し、分かりやすく伝えることができる。
- ③ 国語辞典・漢字辞典が正しく使える。
- ④ わり算の筆算ができる。
- ⑤ 同分母の分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑥ 地図を使って地名が調べられる。
- ⑦ ローマ字を読んだり書いたりすることができる。

<5年生>

- ① 185字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ② 習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- ③ 考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話すことができる。
- ④ 小数のかけ算・わり算ができる。
- ⑤ 異分母の分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑥ 割合・百分率を使った問題ができる。
- ⑦ 47都道府県の位置がわかり、正しく書ける。
- ⑧ 理科の実験道具の正しい使い方を知っている。



学力向上は
家庭学習の
習慣化から

<6年生>

- ① 小学校で習得すべき漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。(6年生の配当漢字は181字)
- ② 小学校で習う漢字を使った熟語の8割を正しく書ける。
- ③ 目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉づかいで話すことができる。
- ④ 歴史に残る古文や漢文のいくつかにふれ、暗唱できる。
- ⑤ 分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- ⑥ 歴史上の事件や人物についてだいたいわかる。
- ⑦ 世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- ⑧ 理科の実験道具の正しい使い方を知っている。

4 生活の中で見えない学力をつけよう

- ア 読書は「見えない学力」を高めます。
- イ 国語辞典・漢和辞典その他の事典や図鑑類を身近において調べよう。
- ウ 日本地図・世界地図・地球儀を身近において調べよう。
- エ ニュース番組を親子で見ても話し合おう。
- オ 自然や生き物とふれあい、くわしく観察しよう。
- カ 百人一首や囲碁、将棋などのゲームを体験しよう。
- キ 家の仕事をめんどろがらずにやろう。
- ク 外遊びや運動をして、体力を高めよう。